

1) VNR の構成案・進め方について

1. VNR の本来の目的を踏まえ、**SDGs 17**項目の評価を主軸としてください。
 - a. 円卓会議で示されたVNRの案では、17項目に対する評価よりも日本の取り組みの章に焦点が当てられている印象を受けました。あくまでも17項目への評価がVNRの本旨であり、その部分がメインになるようにしてください。
 - b. 17項目の評価にあたっては、政府による評価だけでなく、各ステークホルダー、特に脆弱な立場にある人々の意見を幅広く反映させてください。
 - i. 若者は他と等しく重要なステークホルダーであり、長期的に社会を担っていく立場であるため、若者の意見を重視することを要望します。¹
 1. 若者の意味のある参画についての評価も行ってください。²
 2. 若者の意見の収集方法としては、既にある統計やインタビュー調査などのデータ、パブリックコメントの開催やこども家庭庁の意見フォームの利用に加え、既存の若者団体との協働によるコンサルテーションイベントなどの開催を提案します。
 - ii. 2021年のVNRを踏襲し、円卓会議構成員による評価を行う章を設けてください。³
2. 円卓会議を通して出された意見や議論が適切に反映されるようなプロセスを示してください。
 - a. 会議の形骸化を防ぐために、会議での議論内容が今後のVNRプロセスでどのように扱われ、どの程度反映されるのかのフィードバック体制を設置してください。

3) 円卓会議の運営・進行について

1. 以前よりも円卓会議構成員が増えたことをふまえ、有意義な議論を促進するためにも、会議時間を2～3時間に設定してください。
 - a. 発言時間に関しては、1人に対して明確な時間制限を設け、時間を超過した場合発言を打ち切る措置も検討してください。
2. 円卓会議構成員として名を連ねている関係各府省庁に積極的な対面での参加を促してください。
 - a. VNRは日本政府が一丸となって行うべきものであり、その話し合いを行う円卓会議においても関係各府省庁の積極的な参加を要望します。⁴

¹ 2021年のVNRにおいて「SDGsは若者の将来を左右する課題であり、SDGsのフォローアップとレビューにおいて若者の意見を政策に反映させるために、継続的な意見交換の場を設けることが不可欠である。」と指摘されています。にもかかわらず、国や自治体の方針決定の際に、全体の86%の若者が、自分たちの意見が反映されていないと感じているという調査結果があります。データ出典: JYPS『「新時代のパイオニア」プロジェクト 調査報告書』p.53-54

² 2021年のVNRでは「今後の進め方」の章において、「円卓会議民間構成員や市民社会との意見交換、パブリックコメントにおいて、若者の意見を反映させることが重要であると指摘」があったことが記されており、若者の意見を取り入れられる体制の構築の検討が言及されています。

³ 2021年のVNRでは「取組の評価に当たっては、政府の自己評価だけではなく、政府以外の関係者から見た進捗評価も掲載することが望ましいと考え、円卓会議の民間構成員を中心に政府の取組を評価してもらおうこととした。」との言及があります。

⁴ 先月の円卓会議では、関係各府省庁で対面の参加者は内閣府と環境省のみで、オンライン参加が大多数(画面がオンであったかは不明)であり、発言の機会も内閣府のみでした。